

1) - 8 空間の明るさ感評価指標に基づく設計手法の構築と普及促進手法の整備

研究期間（平成 25～27 年度）

[担当者] 三木保弘

本研究課題は、鉛直面への光の配分を重視することにより「空間の明るさ」を確保するための指標の確立を目指し、1) 明るさ感推定モデルの確定、2) 室用途や行為ごとの適切な明るさ感範囲の導出、3) 普及促進のための明るさ感計測・予測ツールの開発と提供、4) 国際基準化に向けた明るさ感基準の提案を行うことを目的としている。

本年度は、前年度までの実験を統括し、明るさ感評価モデルの提案と共に、様々な光源や反射率を含むより不均一な照明環境の明るさ感推定モデルの適用妥当性検討を行った。既存の明るさ感評価モデルの考え方を再整理しながら、1)輝度分布取得処理、2)輝度値前処理、3)平均化処理、4)不均一性に関する補正処理を組み合わせることにより、新たな明るさ感評価の暫定モデルを提案し、さらに被験者実験で、異なる光源・反射率設定で適用可能な明るさ感推定式を求めることができた。